トムラウシ山遭難から2年

教訓は今 上

登山者たちは

「無理しない」意識変化

「悪天候なら断念」…一方で「強行入山」も

「念願だったので山頂に行きたかったが、こんな天気だから単独ならやめたかも。ガイドがいたから登れた」

大雪山系トムラウシ山（2141㍍）の短縮登山口に続く林道が、増水した河川の流出水で崩壊した今月4日、林道から国民宿舎東大雪荘まで徒歩で回して下りた茨城県の60代女性は、泥まみれになった雨具を洗いながら疲れた表情で語った。午前3時すぎに入山。2時間後から雨が降り始めたという。

同登山口からはこの日、道外のツアー登山3組と個人合わせ約70人が日帰り登山で入山。神奈川県の男性（66）が道に迷い、2日後に標高1900㍍地点で道警ヘリに救助される遭難も起きている。

4日は数日前から平地でも雨の予報。山はより悪条件が予想された。「せっかく道外から来たという気持ちも分かるが、われわれなら登らない」。捜索に加わった新得山岳会のメンバーはこう漏らした。

救助要請の88％道外者

「日本百名山ブーム」でトムラウシ山を含む道内九つの百名山登頂を目的に来道する登山者は後を絶たない。道警の統計によると、過去10年間の7月の道内山岳遭難発生状況は95件で146人。うち半数は百名山で起き、疲労による救助要請の88％は道外者だという。

特に飛行機を使って来る場合、帰りの便の関係で日程が固まっていて、多少の悪天候でも入山する場合が少なくない。2年前の大量遭難でも、予備日を設けていなかったことが悲惨な結末の一因になったと指摘する声は多い。

短縮コース登山口からトムラウシ山に入る本州からの登山者（16日午前4時20分ごろ）

日程と心に「ゆとり」を

「あの事故を境に危機感を持って臨む人が相当増えた」。トムラウシ登山の新得側拠点・東大雪荘の秋林伸幸フロント営業企画課長は事故後、登山者の間に少しずつ心構えの変化が出てきていると感じている。

以前ならほとんど無かったことだが、ここ2年は雨の予報だと宿泊をキャンセルしたり、当日に雨が降ると日程を延期したりする人も出始めた。「とにかく上へ」というツアーが多かったが、事故後は悪天候なら途中で断念するツアーも増えた」（秋林課長）という。

それでも日程に追われるように入山するケースが無くなったわけではない。新得山岳会の小西則幸事務局長は「山頂を踏むために雨で登っても面白くない。途中の景色や植物、山の空気を満喫するのも登山の楽しみ」と話し、日程のゆとりと同じくらい、登山者が心のゆとりを持つことが大事だと強く感じている。（高田敦史）

ツアー客ら8人が死亡したトムラウシ山の遭難事故から16日で2年が経過した。近年の登山ブームの中、あの事故の教訓は生かされているのかを考える。

津波で豊頃漂着　4カ月ぶりに

思い出のボール 持ち主に

岩手・大槌町の釜石さん「励まし胸に頑張る」

【豊頃】3月11日の東日本大震災による津波で岩手県大槌町から流され、6月19日に豊頃町内の海岸で見つかったサッカーのサインボールが約4カ月ぶりに持ち主の同町吉里吉里の会社員、釜石翔さん（18）の手に戻った。津波で母親が行方不明のままで、家も無くしたが釜石さんは「このボールに書かれている仲間の励ましを胸に頑張りたい」と話している。

豊頃町から戻ったボールを手にした釜石翔さん（左）と正さん

ボールは海岸の漂流物の様子を調べていた豊頃町の漁業関係者の男性（35）が発見した。直径約15㌢の寄せ書き用のボールで「釜石!!　自分を忘れるな」「大好き釜石！豊」などの文字が書かれていた。東北の物と確認できる漂着物が多数見つかる中、男性は「たくさんの思い出が詰まっているはず。持ち主を探してほしい」と十勝毎日新聞社にボールを託した。

「釜石」が人名なのか地名なのかが判然としないことから本紙は、6月11日に創刊された「復興釜石新聞」（岩手県釜石市）を発行する釜石新聞社に協力を依頼。同紙が紙面で呼び掛けたところ、釜石市の隣の大槌町のサッカー少年団「大槌ジュニア」の6年前のサインボールであることが分かった。今月2日までに持ち主も判明し、ボールは釜石さんと父親の正さん（40）、弟の雅さん（15）に届けられた。

正さんによると、妻の清美さん（39）は、勤め先から戻る途中に車ごと津波に流され行方不明となり、いまだに見つかっていない。自宅も全壊し、少年団時代の思い出の写真や賞状なども全て流されてしまった。このボールが唯一の頑張った証しで、「拾っていただいた方に本当に感謝している」という。

正さんは今月に入り、清美さんの死亡届を提出した。同じ吉里吉里地区に新居も借りた。「前に進まなければならないと思い決断した。3人で頑張っていく」と語る。

拾った男性は「持ち主に返り、喜んでもらえてうれしい。大変だと思うが、頑張ってほしい」とエールを送っている。（大笹健郎）

恵明中で講演する福島選手

「100メートルで10秒台を」

福島千里選手　恵庭の中学校で講演

【恵庭】幕別出身で陸上女子短距離の福島千里選手が14日、恵庭市内の恵明中学校（高野和男校長、生徒550人）で講演した。福島選手は「今の夢は（所属する道ハイテクACの）チームのみんなとロンドン五輪に出場することと、個人では100㍍を10秒台で走ること。私も頑張るので、皆さんも夢をあきらめずに一緒に頑張りましょう」と語った。

恵庭青年会議所が取り組む「えにわ夢のパズルプロジェクト」の一環。福島選手は練習風景などの写真をスクリーンで映しながら、日々の練習や自身の中学生時代、陸上に対する思いなどを語った。

5月に女子400㍍リレーで日本新を出した時にはいていたスパイクシューズなども披露。恵庭北高で指導していた中村宏之監督（現同AC監督）から同高進学を勧められたが、地元に残ることを決めた高校進学時のエピソードを紹介し、「縁があって中村監督にもう一度声をかけてもらい、ここまで育ててもらった。進路選択は迷うかもしれないが、努力を続けていればどの道を選んでも道は開ける」と話した。（山下聡実）

大雨でJR遅れ

16日深夜にかけての大雨の影響で、JR北海道は同日午後9時すぎ、根室線新得―落合（上川管内南富良野町）間と、石勝線新得―トマム間で列車の運行を見合わせた。JR北海道釧路支社によると安全確認後、17日午前0時すぎに運行を再開したが、この影響により、池田―滝川間の普通列車で最大約3時間の遅れが出た。特急スーパーおおぞら13号（午後7時45分札幌発釧路行き）など特急3本も1時間から2時間の遅れ。17日は定刻通り運行している。

広尾で37㍉

前線を伴った低気圧の通過により、十勝地方は16日午前からまとまった雨が降り、帯広測候所によると、17日午前11時までの24時間降水量は広尾37㍉、大樹31・5㍉、池田26・5㍉、新得25・5㍉を記録した。帯広は21・5㍉だった。上士幌、新得、清水に大雨注意報を発令。同測候所は引き続き17日夕にかけ、土砂災害の注意を呼び掛けている。

ピックアップ

○…北海道ホテル（帯広市西7南19、林文昭社長）で16日、通算5000組目となるウエディングが行われた。音更町の会社員で新郎の佐渡谷まどかさん（28）と、同じく新婦の佐渡谷さん（28）に、同ホテルからナイアガラ花火がサプライズでプレゼントされた＝写真。

○…開業以来16年で達成し感謝の気持ちを込めて企画した。式の最後に長さ約20㍍のナイアガラ花火が華やかに披露されると、山口さんと佐渡谷さんは驚いた表情で見つめ合い、感激のあまり思わず涙ぐむ場面も見られた。

○…2人は「メモリアルになったのはびっくり」と大喜び。「笑いの絶えない元気な家庭を築きたい」と決意を新たにしていた。同ホテルは「これからも最高のホスピタリティと共に門出をお祝いしたい」と話していた。

おくやみ

黒田政信さん（くろだ・まさのぶ＝98歳。音更町字下士幌48）元農業。療養中だったが、16日午後2時15分、死去した。農業黒田幸和さんの父。農業黒田浩光さんの祖父。喪主は長男幸和（ゆきかず）さん。

橘　要藏さん（たちばな・ようぞう＝97歳。芽室町北伏古南7線7ノ4）元農業。療養中だったが、16日午後11時41分、死去した。元農業橘照さん、元北海道銀行根室支店長橘英男さんの父。元帯陸自司令部付隊勤務吉阪彰市さんの義父。喪主は妻しずさん。

島朝之助さん（しま・あさのすけ＝92歳。帯広市西7南24ノ74）療養中だったが、17日午前4時20分、死去した。島行政労務事務所代表島良之さんの父。帯広民主商工会勤務島恵美子さんの義父。喪主は長男良之（よしゆき）さん。

尾野フジ子さん（おの・ふじこ＝91歳。帯広市西16南6ノ39）療養中だったが、16日午前6時13分、死去した。元帯広冷蔵営業部長尾野豊三さんの妻。オーエスオー社長尾野知昇さん、元柏市立富勢小学校教諭鈴木幾子さんの母。イオン野田店勤務尾野紀美さん、元鎌ヶ谷市立第三中学校長鈴木武さんの義母。元ステラ勤務尾野英孝さんの祖母。喪主は夫豊三（とよぞう）さん。

村瀬　清さん（むらせ・きよし＝85歳。中札内村東1北2ノ4）元農業。療養中だったが、16日午前10時55分、死去した。十勝総合振興局森林室足寄事務所長村瀬敏雄さん、吉井商事勤務加藤洋子さんの父。農業姉崎務さん、農業加藤一志さんの義父。JA中札内村勤務姉崎江美さんの祖父。喪主は妻行枝（いくえ）さん。

古澤徹兒さん（ふるさわ・てつじ＝77歳。帯広市西18南3ノ42）畜産施設環境開発研究所長。療養中だったが、17日午前5時25分、死去した。セイコーマート帯広西15条店勤務田中真弓さん、帯広市役所商業まちづくり課勤務山口暁子さんの父。ダイイチみなみ野店勤務田中陽平さんの祖父。喪主は妻綾子（あやこ）さん。

（おくやみは2面にも）

父 **黒田政信** 儀 病気療養中のところ、七月十六日午後二時十五分、九十八歳をもって帰幽致しました。ここに生前のご厚情を深謝し、謹んでご通知申し上げます。おって葬儀は左記により執り行います。

記

一、通夜祭　七月十八日午後七時
一、葬場祭　七月十九日午前十時
一、場　所　のむら葬祭音更町民斎場

音更町木野西通十七丁目一番地 ☎(30)2626
平成二十三年七月十七日
音更町字下士幌四十八番地
喪主 長男 黒田幸和
施主 孫 黒田昭子
黒田浩光
黒田真理
長女（札幌市）杉山養子
二女（札幌市）佐藤美知子
二男（北広島市）黒田裕教子
三女（北広島市）黒田敦子
ほか 親戚 幅田健二子
幅田知津子
黒田同子
栄行政区区長 黒田英明
葬儀委員長 親戚一同

当会副会長 黒田幸和殿 ご尊父
当会顧問・元会長 黒田政信殿　七月十六日午後二時十五分、帰幽致されました。
ここに謹んでお知らせ申し上げます。
平成二十三年七月十七日
音更神道会
会長 高松祐一

妻 **尾野フジ子** 儀 病気療養中のところ、七月十六日午前六時十三分、九十一歳をもって永眠致しました。ここに生前のご厚情を深謝し、謹んでご通知申し上げます。おって葬儀は左記により執り行います。

記

一、通夜　七月十八日午後七時
一、葬儀　七月十九日午前十時
一、場　所　ベルコセレモニーホール

帯広市西四条南二十七丁目一 ☎(21)4444
平成二十三年七月十七日
帯広市西十六条南六丁目三十九番八号
喪主 長男（千葉県）尾野豊三
施主 長男（千葉県）尾野知昇
長女 鈴木幾子
姉 杉本ヒサノ
孫代表（千葉県）尾野紀美
親戚代表 尾野英孝
ほか 親戚 尾野勝武
齋藤一同
藤和二郎
縁交町内会会長 齋藤和郎
葬儀委員長

父 **島朝之助** 儀 病気療養中のところ、七月十七日午前四時二十分、九十二歳をもって命終致しました。ここに生前のご厚情を深謝し、謹んでご通知申し上げます。おって葬儀は左記により執り行います。

記

一、通夜　七月十八日午後七時
一、葬儀　七月十九日午前十一時
一、場　所　ベルコセレモニーホール

帯広市西四条南二十七丁目一 ☎(21)4444
平成二十三年七月十七日
喪主 長男 島良之
長女 白島恵美子
ほか 親戚 木昭夫
梅本美代子
俊夫一同
南ヶ丘町内会会長 葬儀委員長

夫 **村瀬　清** 儀 病気療養中のところ、七月十六日午前十時五十五分、八十五歳をもって永眠致しました。ここに生前のご厚情を深謝し、謹んでご通知申し上げます。おって葬儀は左記により執り行います。

記

一、通夜　七月十八日午後七時
一、葬儀　七月十九日午前十時
一、場　所　中札内村老人保健福祉センター

中札内村西二条南二十二番二 ☎(67)2321
平成二十三年七月十七日
中札内村東一条北二丁目四番地十六
喪主 村瀬行枝
施主 長男（足寄町）村瀬敏雄
二男（神奈川県）村瀬陽
長女（幕別町）村瀬節子
二女 姉崎洋子
孫代表 加藤一志
ほか 親戚 姉崎江美子
加藤洋子
姉崎和志子
須賀裕一
姉崎務勉子
中札内村南一区区長 須賀一同
葬儀委員長

夫 **橘　要藏** 儀 病気療養中のところ、七月十六日午後十一時四十一分、九十七歳の人生を果たし命終致しました。ここに生前のご厚情を深謝し、謹んでご通知申し上げます。おって葬儀は左記により執り行います。

記

一、通夜　七月十八日午後七時
一、葬儀　七月十九日午前十時
一、場　所　大船寺

芽室町北伏古南九線十番地 ☎(62)2378
平成二十三年七月十七日
芽室町北伏古南七線七番地四
喪主 橘し
施主 長男 橘照
橘ず
長女（帯広市）吉阪彰市
吉橋洋子
ほか 親戚 吉阪幸子
橘節子
孫代表（帯広市）橘勝男子
岡田一同
親戚敏子
中北伏古農事組合組合長 葬儀委員長

夫 **古澤徹兒** 儀 病気療養中のところ、七月十七日午前五時二十五分、七十七歳をもって永眠致しました。ここに生前のご厚情を深謝し、謹んでご通知申し上げます。おって葬儀は左記により執り行います。

記

一、通夜　七月十八日午後七時
一、葬儀　七月十九日午前十時
一、場　所　ベルコ西シティホール

帯広市西二十一条南一丁目十五の一 ☎(36)4444
平成二十三年七月十七日
帯広市西十八条南三丁目四十二番三号
喪主 長女 古澤綾子
施主 二女 田中暁真弓子
孫代表 田中陽平
ほか 親戚 山口一同
尾関弘
三友中央町内会会長 葬儀委員長

家族葬 やすらぎ 帯広市西18条北1丁目 電話 ㉟10110

当寺元総代 坂野聲瑳男殿　七月十五日午後九時五十三分、逝去致されました。
ここに謹んでお知らせ申し上げます。
平成二十三年七月十七日
曹洞宗 永祥寺
住職 織田秀道